

# 私の博物誌

題字 石川進

## 第十七回 「眼鏡」

ベッドに入り横になって枕元のスタンドを消灯する。既に床中は暖かく、湿気のないベッドは一日の疲れを癒やし、体の片寄った使用の痛みも解放してくれるのだ。その頃、毎晩のように消灯すると妙な現象が起こった。

ダイヤルが3程度の電気毛布の赤いパイロットランプが一瞬二秒はいつものように、くつきりと見えて数字の様子から大旨、床中の暖かさの塩梅も瞬時に知ることができていた。その頃までは。

ある晩のこと、いつものように少しの間本を読み、消灯をして電気毛布の目盛りとパイロットランプに目をやった。いつもと同じことだった。一瞬二秒後、径が一センチにも満たないパイロットランプがくつきりと見えた後、ポッと瞬間に飛び出し、数字も無論ポッと霞んで見えなくなる。不思議な現象もあるものだなと思いがら、同じような冬の日々の始まりをしぱらく送った後、視力だけが自慢だった眼

検査を受けた結果「老眼になってますね」との答えに、絶対であったはずの自信が崩れ去って、急に年老いた気分になった。四十九歳になった初冬のことだった。目も塩水が入ったような痛みを、しばしば感ずるようになった。

爾来二十三年、多分私の身の廻りには二十台以上の眼鏡が、書斎とベッドの辺りに無秩序に置かれ、整理整頓が全く不得手の私は、数多い眼鏡に踊らされ、眼鏡を探して暮らす日々が続いている。

最初の眼鏡は初めての経験から、ダンヒルのチタン製のフレームに金のポイントが象嵌された良いものを選んでみたが、一年半程で駄目になった。慣れない眼鏡をかけたままトイレの角を曲るとき、柱の縁にフレームが当たり、レンズを止める左側のリングが割れてレンズは落ちた。修理代は高かったが溶接部は再び割れ、二度目の補修はしなかった。そして、眼鏡行脚が始まる。

私の仕事には、遠・中・近距離の三種の眼鏡が必要で、遠は遠視、車の運転や通常の作業などに使うもの、中は机上で手習いをしたり手本を書いたりする場合の顔から四十センチ程離れた焦点を持つもの、近は文章や手紙、読書、字書の検索などの折に

使用する一番度数の高いものだが、加齢と共にどの眼鏡も合わなくなり、遠・中・近のそれぞれが断わりもなくどんどん進んで、字書などに用いるものはまるで虫眼鏡の如く、これなどをかけて階段や梯子などの昇降はもつてのほか。

グラグラとした視野が危険なこと極まりないのだ。思えば、若かった頃の視力がとてもなつかしく思われる。

彼は誰時、白昼、黄昏時、日没後など、どんなときでも四十八歳までは両眼共に一・五を、一時は二・〇も経験した身としては、何とも情けなく思う。

何度か書いたが、やかましい親父に育てられた割には整理整頓が全く駄目のまま育ち、毎日のようにあの眼鏡は？この眼鏡は？に最初の頃は懸命になって探してくれた妻も食傷気味なのだろう、返って来る返事は、いまひとつ力の抜けた「知らない」だ。

二十余台のそれぞれに色別の布でも付けるか、紐を付けるか、思案投げ首の日々が過ぎて行くが、未だそれに対する妙案は見つかからない。困ったものである。無論、これから整理整頓の名手になれる可能性は、期待できはしない。



二十台以上の眼鏡が、書斎などに無秩序に置かれている



書いている人



石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員、書法探求顧問

虎の門病院医師ネットワーク会員

人工透析施設



医療法人 **かもめクリニック**

理事長 金田 浩

かもめ・みなとみらいクリニック

横浜市西区みなとみらい3-6-3MMパークビル3F TEL.045-228-2212

かもめクリニック

いわき市草木台5-8 TEL.0246-28-1010

かもめ・大津港クリニック

北茨城市大津町北町字深田432-1 TEL.0293-46-0133

かもめ・日立クリニック

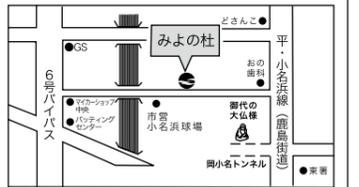
日立市東滑川町1丁目3186 TEL.0294-25-1531

心かよう絆を大切にしたい…。

御代の大仏様のおひざ元



仏式・神式・キリスト教式・生花・花輪・祭壇  
ホール・(大)800名様以上(中)300名様以上  
(小)300名様まで  
バス送迎・霊柩車・霊安室設備・法要膳  
予算及び自宅葬の御相談承ります。



住所：いわき市鹿島町御代字赤坂22-1  
年中無休・24時間受付

TEL.76-0202